

## 秋入学式 式辞

令和6年度、秋季に入学された大学院博士課程3名、博士後期課程3名の皆さん、入学おめでとうございます。

今回入学される大学院学生の方々の多くが、すでに修士あるいは6年制の薬学部学士課程を修了された社会人、あるいは国費の外国人留学生の方々と思います。

秋入学制度をはじめた本学の動機としては、社会人として、「勤務先の異動の時期を考えると、年度をまたぐ時期の4月入学では、見通しがたちにくいので、大学院の受験を決断しにくい」という声に対応したものです。大学院で落ち着いて研究する見通しがつきやすいという秋入学のほうが、入学の準備に余裕があったのではないかと思います。

近年、静岡県では、首都圏はもちろん、周辺の愛知県や神奈川県と比較しても、研究人材の蓄積が不足しているという報道がなされています。静岡県の産業の振興にも、研究人材の蓄積は重要だと思いますし、そのためにも県立大学である本学から博士の学位取得者を輩出し続けることが重要です。

一方、皆さんにとって研究を行うことは、直接的に研究成果をあげ

ることも、もちろんあると思いますが、研究活動を通して得られた間接的な効果のほうが重要かもしれません。目的意識と問題の設定、手段の考案、実験系であれば注意深い実施と課題解決、研究結果の意義を考察すること、さらに未解決な問題の洗い出しというサイクルが必要です。

ただし、いわゆる PDCA サイクルにとどまらず、思いがけない結果に直面したときの思考の柔軟性がぜひとも必要だと思います。このように、研究経験によって培われた実力は、皆さんの将来にとって、色々な可能性をもたらす資源となると思います。

大学院で過ごされる時間が、皆さんにとって価値あるものとなることを願っています。

本日のご入学、まことにおめでとうございます。